

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800883
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム滝原
事業所名	グループホーム 滝原
所在地 (電話番号)	度会郡大紀町滝原830-1 (電話) 0598-84-8088
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 2 月 28 日(木)

【情報提供票より】 (H20年2月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10人, 非常勤 7人, 常勤換算	14.3人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	500~2,150 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4)利用者の概要(2 月 11 日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 76.2 歳	最低 73 歳	最高 100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大台厚生病院 虹の丘病院 ひまわり歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は国道42号から少し入った広くゆったりとした、時にはサルが出没するなど静かな環境に囲まれたところに建てられている。東棟・西棟の2のユニットが運営されている。建物は明るく清潔で回廊方式になっている。職員もチームワークもよく、明るく楽しく利用者を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居契約書等については改善中であり、地域への理念の啓発については運営推進会議で説明されている。申し送り等については職員がサインをして確認している。利用者の健康診断は行われていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が評価項目を職員に説明し、自己評価を職員で行い、評価を生かし出来ることから改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議で地域密着型への移行に伴うグループホームのあり方の説明や、事業内容の報告をし意見や協力をお願いしている。また、事業所の理念も配布されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議や家族面会時に気軽に声かけをし、意見、要望、苦情などを聴取し、その都度対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や老人会には加入していないが、話かけをしている。また、年に2, 3回近隣のボランティアの方や、小学生の訪問を受け入れ交流を図っている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との共生そして自立、入居者家族とのコミュニケーション、人格の尊重と平等、やさしい言葉と柔和な態度、一人ひとりの気持ちをくんだ支えを」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	東棟・西棟のリビングに掲示され、職員の名札の裏面にも書かれているなど、理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会には加入していないが話かけをしている。年に2、3回近隣のボランティアや夏休みには小学生の訪問を受け入れて交流を図っている。	○	運営推進会議などを通じて積極的に地域活動に参加して、よりいっそうの交流を望みます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が説明をして、客観的に分析をし、自己評価を職員で行い、評価を活かし出来るところから改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは、町職員、地域包括支援センター、区長、老人会役員、民生自動委員、利用者家族が参加して会議を開催している。会議では地域密着型への移行に伴うグループホームのあり方の説明や事業内容の報告をし、意見や協力をお願いしている。又、理念も印刷し配布されている。	○	運営推進会議でメンバーの方から積極的な意見・協力が得られるような取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場や地域包括支援センターを訪問し、地域の状況の説明を受けたりして交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的には行っていないが、家族の来訪時に利用者一人ひとりの状況を詳しく報告されている。	○	来訪時以外にもお便りなどを発行して、定期的、随時に利用者一人ひとりの家族への報告が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは来訪時に意見・苦情等を聴取し、その都度対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の防止に努力し、馴染みの関係を築けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者講習に1名が参加しているが他には受講されていない。	○	職員各自に応じた段階的、計画的な研修の機会を設けるよう努力してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に参加をしている。又、地域の同業者(2箇所)とも交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に事業所を見学に来てもらって、本人が納得し安心してサービスを受けられるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状態・生活歴の把握と昔のことを聞きながら、押し付けのない見守りの中で作業を一緒に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のアセスメント表を作成し、日々のケアの中で書き加え、本人の意向に副えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者が介護計画を作成し、原案についてカンファレンスで検討し家族に相談をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは定期的には行っていないが、職員からの情報(業務日誌など)により随時に行っている。	○	利用者に変化が無いときでも定期的(3ヶ月に1回程度)に家族を含めた関係者で計画の見直しをすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・理髪などの外出支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認したうえで、主治医を決めており、入所前のかかりつけ医にも受診出来るよう支援している。また、家族が同行して受診出来ない時は職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは行っていない。ホームでの対応の可能・不可能なことを十分説明し、主治医と家族と相談しながら必要に応じて他の施設や病院などを紹介している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉使いや職員同士の会話にも気をつけ本人を傷つけたり、プライバシーを損ねないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴を把握し、利用者の生活リズムに配慮しながら楽しく過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備には参加をしていないが、後片付けは各利用者の能力に応じて協力してもらっている。食事は利用者と職員が会話をしながら楽しいひと時を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後本人の状態や希望を確認しながら入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けやテーブル拭き、リビングや廊下の掃除など利用者の出来ることをお願いしている。畑のことについても利用者が自ら手本を見せてくれるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な散歩は行っていないが、利用者一人ひとりの希望を確認しながら買い物などの外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外玄関などは鍵はかけていない。職員は常に利用者にも目配りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。うち1回は消防署の協力してもらっている。	○	避難訓練のマニュアルの作成と、夜間想定訓練を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表と一覧表に食事内容、摂取量が記録されている。水分の摂取については食事、おやつ以外はペットボトルを利用し夜間などの摂取に対応している。	○	利用者個々の栄養バランス、必要な水分量について定期的に栄養士に点検してもらうなど、日々の健康管理に努められることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、浴室・トイレも清潔である。壁には利用者が作成した季節が感じられる塗り絵などが掛けられている。又、立派なひな壇も飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく清潔で、使い慣れた物や好みの物が置かれている。		